

ひゃくさいじけいだい

百済寺境内

(国指定史跡・東近江市指定名勝)

所在地：東近江市百済寺町



仁王門から本堂を望む



⑫**五重塔跡** 百済寺の発掘は、昭和 27 年に五重塔跡で信楽焼の一つの壺（東近江市指定文化財）が発見されたことから始まります。少なくとも室町期には五重塔がこの地に立っており、度重なる火災によって二回以上焼失したことが、文献からも発掘調査からも明らかです。

※丸数字は 3 ページの地図内の番号と一致しています。

遺跡の概要

百済寺は、湖東三山として有名な天台宗の古刹で、聖徳太子の開基と伝えられ、高句麗僧慧慈と百済僧道欣が関わったとされます。

鎌倉・室町時代には隆盛を誇り、都にもその名が轟く湖東の大寺院でした。百済寺は近江守護佐々木六角氏の支援を得て、その防備を固めていきました。

織田信長は近江侵攻の当初は百済寺を願い寺として保護しましたが、百済寺が佐々木六角と内通していることが明らかになると、全山焼き払ってしまいます。その様は、当時日本に滞在していたキリスト教宣教師ルイス・フロイスによりつづさに語られています。

江戸時代に徳川幕府や彦根藩主井伊家の支援をうけて復興します。こうして百済寺は、幾多の苦難を乗り越えながら、現在に至るまで、その法灯を絶え間なく守り続けています。

境内にある良好な状態で保存された中世の遺構が評価され、平成 20 年に国史跡の指定を受けました。



①本坊喜見院（書院（登録文化財）・庭園）

現在の百済寺

駐車場からまず目にする建物が本坊喜見院^{きけんいん}です。本坊喜見院は、昭和 15 年に仁王門南側^{におうもん}から現在の位置に移築され、併せて山中にあった不動堂も移築されました。

庭園は、本坊整備後の昭和 39 年に着工し、昭和 43 年に完成。現代鈍穴流^{どんけつ}の作法で作庭された庭園です。

近世の百済寺

織田信長により全山灰燼^{かいじん}と帰した後、南光坊天海^{なんこうぼうてん}の高弟 亮 算^{かうていりょうさん}が入山し、徳川幕府をはじめ、彦根藩主井伊家などの支援をうけ復興します。



②本堂（重要文化財） いわゆる五間堂^{ごけんどう}で、信長の焼き討ちの後、慶安三（1650）年に再建されました。



④現参道 中世の石垣を利用して近世に整備されたことが石垣よりわかります。現参道沿いに何ヶ所か石垣の構築の過程を見て取れる部分が残っています。



③仁王門 現参道から見上げる大草鞋^{おおわらし}が印象的な仁王門は、現参道や本堂と同時期に再建され、近代に大規模な改修を受けています。



⑥峻徳院墓所^{しゆんとくいんぼしょ} 彦根藩主井伊家二代直孝^{なまたか ちゃくし}の嫡子であった直滋^{なおしげ}は、二代・三代将軍に寵愛^{ちやうあい}されたが、父直孝^{かんき}の勘気にふれ、出家した後、寛文元（1661）年この地で没しました。享保 17（1732）年に井伊家九代直惟^{なおのぶ}より許しを得てこの地に^{びやう}廟が設けられました。

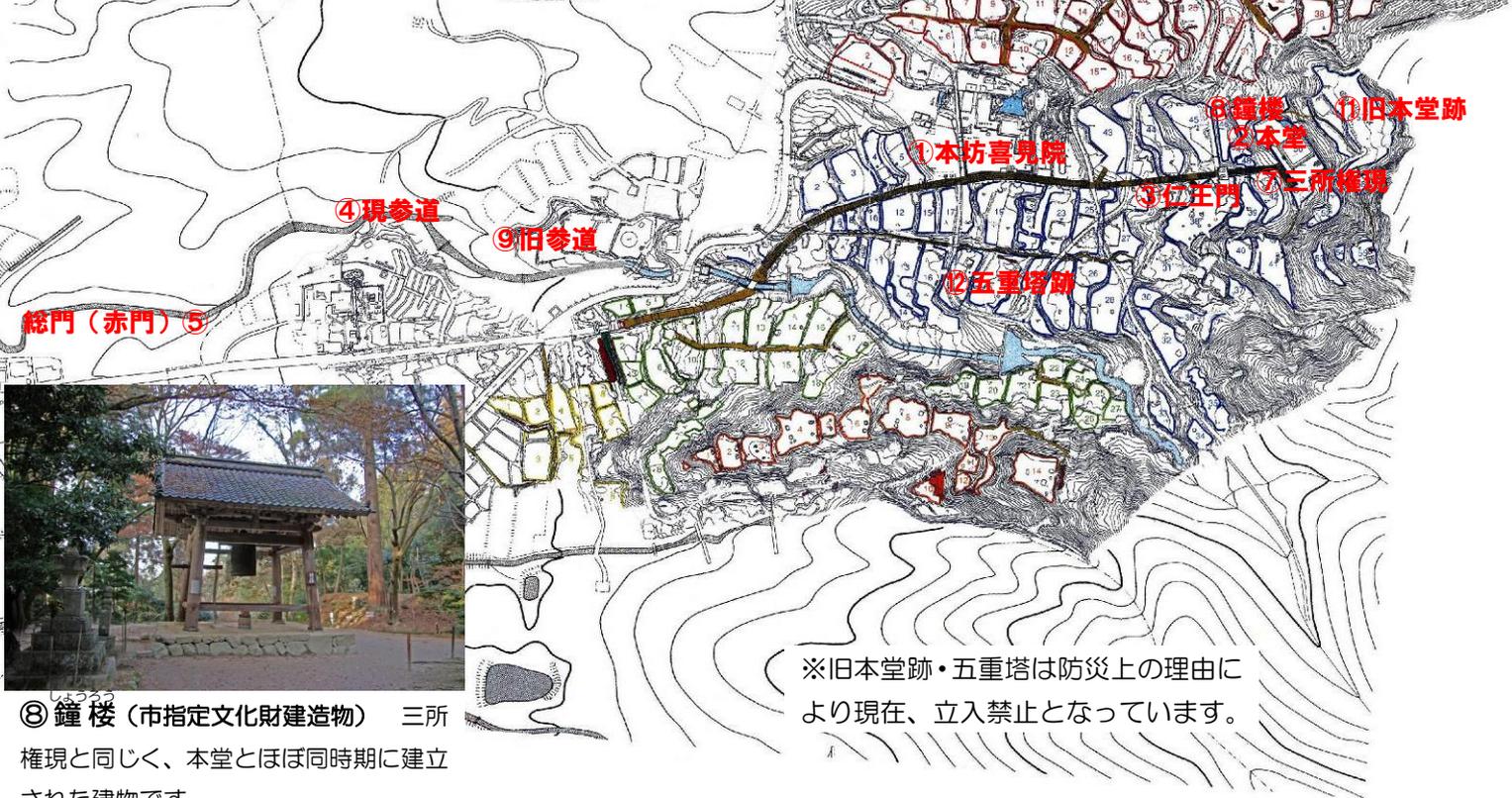


⑤総門（赤門）（市指定文化財） 本堂再建の頃に建立されたと考えられます。門の両脇には土塁と堀切があり、大寺の正門としての堅固な構えとなっています。



⑦三所権現 (市指定文化財建造物)

本堂と同時期に建立された一間社流造の社殿。本堂内陣で保存されていた懸仏と当社殿に祀られていた熊野三所権現御正躰(鏡板・東近江市指定文化財)から信長の焼き討ちの際に本尊を奥の院に避難し、その後仮堂を建てて復興した様子が明らかになりました。



※旧本堂跡・五重塔は防災上の理由により現在、立入禁止となっています。



⑧鐘楼 (市指定文化財建造物) 三所権現と同じく、本堂とほぼ同時期に建立された建物です。

中世の百済寺

百済寺境内の分布調査では、約260区画の寺院建物跡に関連する平坦地が確認され、発掘調査では、8世紀の須恵器から近世の陶磁器などいろいろな種類の遺物が出土しています。特に13世紀の常滑焼や備前の大甕が埋められた状態で発見され、寺院の中で油・酒・藍染めなどの生産が行われていたことがわかります。

中世の墓跡から出土した蔵骨器(市指定文化財)も白磁など当時大変貴重品であったものを使っています。



埋甕遺構



中世墓・蔵骨器出土状況



百済寺境内出土遺物 (市指定文化財、左：中世墓出土、右：塔跡出土)



◎旧参道

現在の総門から本坊を経て本堂に至る石段の参道は近世に復興整備されましたが、中世に利用されていた旧参道も現在の参道より一歩足を踏み入れれば、その様子を窺うことができます。

◎は現参道に平行した直線部分で、⑩は本堂から北側に下る林道沿いにあります。これらには旧参道から堂・坊跡の平坦地に入る石段や周囲を取り囲む石垣を見ることができます。



⑩旧本堂跡

かつて「湖東の小叡山」と称された大寺院百済寺の本堂があった場所です。現在より規模の大きな七間四面の本堂であったとされています。現在の本堂のある平坦地より三倍近い広さの平坦地には、一部礎石の見える部分もあり、本堂以外にもいくつかの建物が配置されていたことが推測されます。



書院と庭園

★百済寺境内には・・・



所在地：東近江市百済寺町
 アクセス：近江鉄道八日市駅からちよこっとバス愛東線でマーガレットステーションバス停乗り換え、ちよこっとバス愛東北線(予約制)で百済寺本坊前下車
 名神高速道路八日市I.Cより車で10分



秋の百済寺境内



東近江市の遺跡シリーズ10「百済寺境内」

編集・発行：東近江市教育委員会 埋蔵文化財センター

〒521-1225 滋賀県東近江市山路町 2225

TEL:0748-42-5011 IP:0505-801-5011 FAX:0748-42-5816

[平成23年3月発行]

このパンフレットは地域活性化交付金(住民生活に光をそそぐ交付金)を得て作成しました。